

阿蘇火山における地球化学的観測*

Geochemical observation at Aso Volcano

九州大学大学院理学研究院地震火山観測研究センター

Institute of Seismology and Volcanology,

Faculty of Sciences, Kyushu University

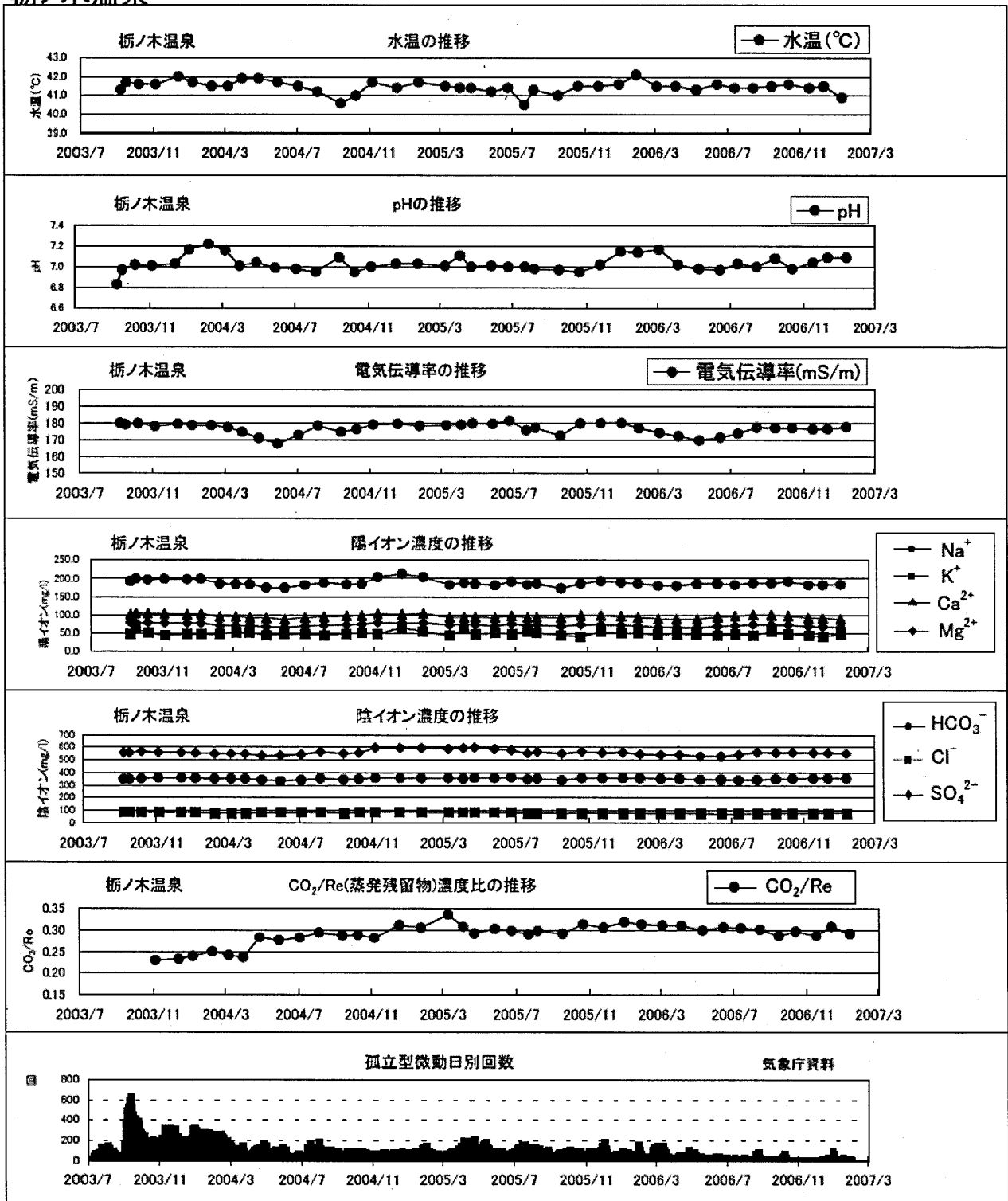
阿蘇火山では、2003年夏より火山活動が活発化し、2003年7月10日、2004年1月14日、2005年4月14日に、ごく小規模な噴火が確認されている。九州大学地震火山観測研究センターでは、栃ノ木温泉と垂玉温泉における温泉観測を行っており、その結果を報告する。

第1図と第2図に栃ノ木温泉と垂玉温泉の2003年9月以降の観測結果を示す。両温泉の溶存二酸化炭素相対濃度（二酸化炭素濃度／蒸発残留物濃度）は、2004年の夏以降、若干の変動はあるが、やや高いレベルを維持している。

なお、2006年3月ごろより垂玉温泉の北北西約1.3kmにある吉岡地区で噴気地熱活動が活発になっている（京大資料など）が、垂玉温泉の主要化学成分や二酸化炭素濃度には有意な変化は現れていない。

* 2007年8月6日受付

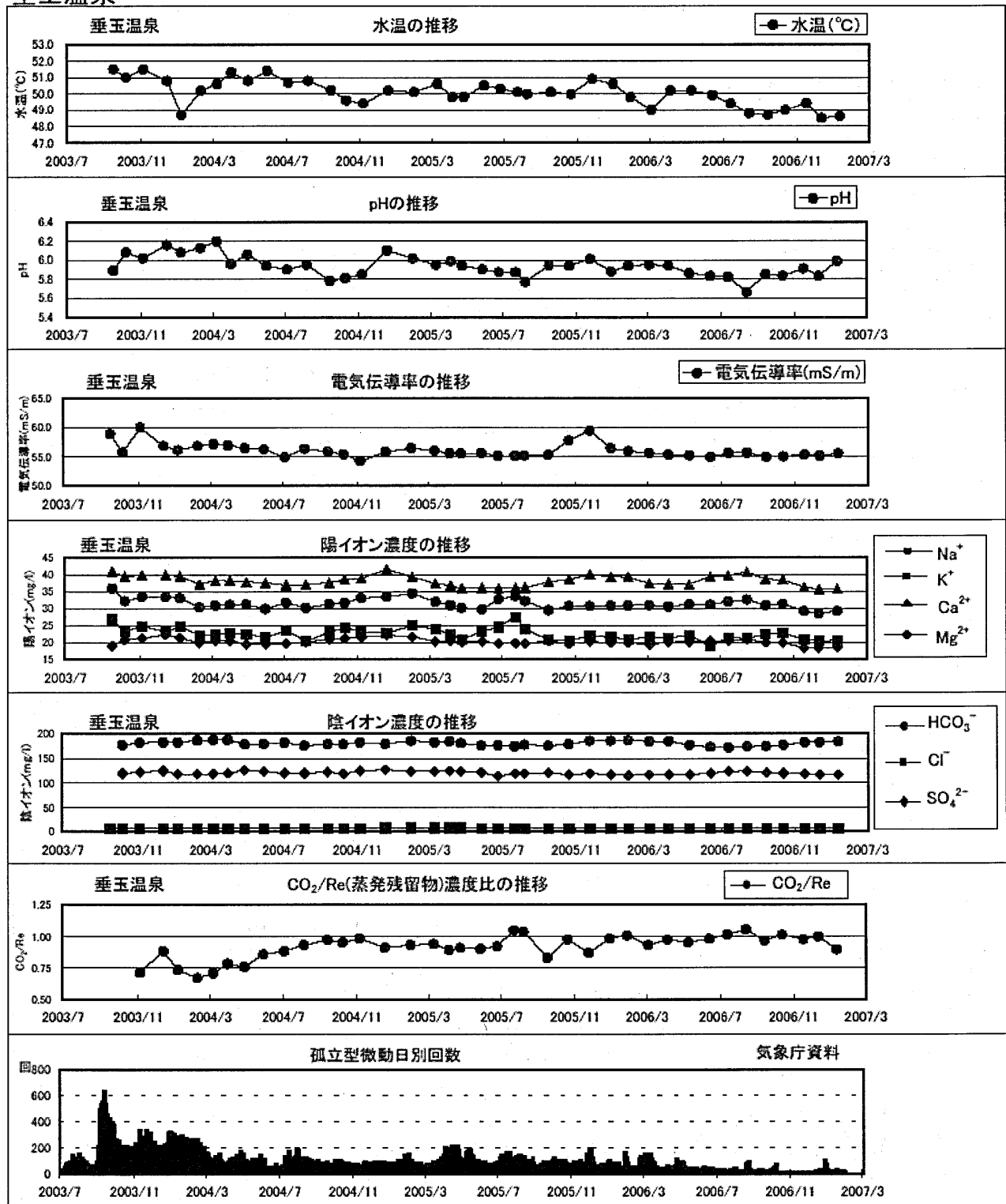
栃ノ木温泉



第1図 栃ノ木温泉小山旅館（平湯）の水温・pH・電気伝導率・主要化学成分濃度・CO₂/Re(蒸発残留物)濃度比の推移。孤立型微動日別回数は気象庁資料。

Fig.1 Changes in temperature, pH, electrical conductivity, main chemical component concentration and CO₂/Re (evaporation residue) concentration ratio at Oyama Japanese Inn (Hirayu) of the Tochinoki hot-spring. Daily number of the isolated tremor is from the JMA.

垂玉温泉



第2図 垂玉温泉山口旅館（本湯）の水温・pH・電気伝導率・主要化学成分濃度・CO₂/Re(蒸発残留物)濃度比の推移。孤立型微動日別回数は気象庁資料。

Fig.2 Changes in temperature, pH, electrical conductivity, main chemical component concentration and CO₂/Re (evaporation residue) concentration ratio at Yamaguchi Japanese Inn (Motoyu) of the Tarutama hot-spring. Daily number of the isolated tremor is from the JMA.